

第26回
あすなる夢建築
大阪府
公共建築
設計コンクール
入選作品集

主催

大阪府 公益社団法人 大阪府建築士会 大阪府住宅供給公社

後援

大阪府教育委員会 一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会

協賛

一般社団法人 日本建築協会 一般社団法人 大阪府建築士事務所協会
公益社団法人 日本建築家協会近畿支部 一般財団法人 大阪建築防災センター
一般財団法人 日本建築総合試験所 一般社団法人 公共建築協会
一般社団法人 大阪府設備設計事務所協会 公益社団法人 日本建築積算協会関西支部
公益財団法人 建築技術教育普及センター近畿支部

テーマ：多様なコミュニティ活動の場
～大阪府宮塚宮山台4丁住宅集会所～

コンクール概要

このコンクールは、小規模な公共建築物を題材とした実践教育の場を提供することにより、将来の建築技術者の育成を図るとともに、永く府民に愛され親しまれる公共建築づくりを推進することを目的として、大阪府内に所在する建築関連学科のある工業高校や専修学校等に在籍する学生・生徒から提案を募集し、グランプリに選定された作品の提案趣旨を活かして事業化を行うものです。

テーマ

多様なコミュニティ活動の場
～大阪府菅塚宮山台4丁目住宅集会所～

主な設計条件

所在地：堺市南区宮山台4丁目
計画地面積：約570㎡
床面積：175㎡以下
構造・規模：鉄筋コンクリート造 平屋建て1棟（地下なし）

作品受付期間

平成29年1月5日（木）～1月12日（木）

応募状況

応募校数：16校
応募作品数：349点（うち第1部117点、第2部232点）
応募者数：389人（うち第1部117人、第2部272人）

第1部

大阪市立工芸高等学校 大阪市立都島工業高等学校 堺市立堺高等学校
大阪府立今宮工科高等学校 大阪府立西野田工科高等学校

第2部

大阪建設専門学校 大阪工業技術専門学校
大阪市立デザイン教育研究所 大阪デザイナー専門学校
大阪総合デザイン専門学校 大阪府立北大阪高等職業技術専門学校
大阪府立大学工業高等専門学校 修成建設専門学校
中央工学校 OSAKA 日本理工情報専門学校 近畿職業能力開発大学校

応募資格

大阪府内に所在する学校のうち、学校教育法の規定による工業高等学校（工科高等学校）・短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校・高等職業技術専門校の建築関連学科に在籍する学生・生徒であり、個人又は3名以下のグループ。

募集区分

第1部：工業高等学校（工科高等学校）に在籍する生徒
第2部：短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校・高等職業技術専門校に在籍する学生

入選作品と賞

グランプリ1点、準グランプリ1点、優秀作品賞2点、佳作3点、奨励賞3点の計10点を入選作品として選出。
ただし、第1部と第2部からそれぞれ2点以上の入選作品を選出することとした。

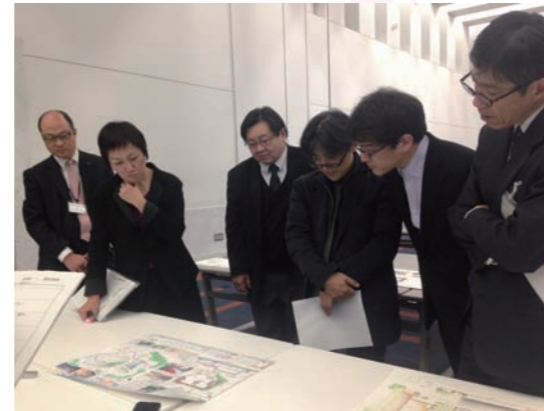
表彰式・プレゼンテーション

日時：平成29年3月29日（水）
場所：大阪府公館 大サロン

作品展示

場所及び期間

- 大阪府咲洲庁舎 2階エントランスホール
平成29年2月22日（水）～3月3日（金）
- ハグミュージアム / 大阪ガス ショールーム 3階 エスカレーター側
平成29年3月6日（月）～3月16日（木）
- 大阪府庁本館 1階ロビー
平成29年3月17日（金）～3月28日（火）



審査委員

【審査委員長】
福原 和則
(大阪工業大学工学部空間デザイン学科教授)

【審査委員】
下村 泰彦
(大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科教授)

岩田 章吾
(武庫川女子大学短期大学部生活造形学科教授)

井上 久実
(一級建築士事務所井上久実設計室代表)

多田 純治
(大阪府住宅まちづくり部公共建築室住宅設計課長)

越智 正一
(大阪府住宅まちづくり部公共建築室長)

総評 審査委員長 福原 和則

本年度は、住宅が課題であり記録的な応募数であった昨年から、さらに大幅に記録を更新する多数の応募をいただきました。実現することを前提としている本コンクールの価値が広く紹介され、より一層注目された結果であると手応えを感じています。

高校生の部、専修学校生等の部の其々に、優れた作品がありました。特に今年度は高校生の部の作品が多く、専修学校生等の部を上回る入賞数となりました。これは、課題の問いかけに対して素直に回答したことが評価された結果です。

一方、専修学校生等の部の作品は、提案にはっきりした主張を含み、プレゼンテーションもたいへん質の高いものでした。しかし、その特徴が管理面やコスト面において不利な部分を含んでいたことからグランプリを逃しました。

審査員は、若者らしい斬新なアイデアを期待する反面、現実的な条件を満足させながら、施設の在り方や使い方を丁寧に検証し、空間構成の斬新さで勝負する本格派を求めています。皆さんの一層の頑張りには期待します。

最後になりますが、本紙面を拝借して、入賞された皆様へのお祝いと、このコンクールに作品を提出された皆様、そしてそのご指導に当たられた先生方のご努力に対する御礼を申し上げます。

夏目 亜利紗 作品（グランプリ）

コンパクトで合理的な平面構成を取りながら、各室に二面採光することで快適な内部空間を構想した。集会室や和室は前面道路側に開くように配置され、周辺街区からよく見える。また、家型の外観は親しみやすさとシンボル性を併せ持つ。バランスの取れた案として評価され、グランプリに決定した。

宮地 平 作品（優秀作品賞）

北側の近隣側への親しみやすい外観デザインが高い評価を得た。段差とスロープがある南側に水場を配し、北側に居室を雁行に配置して、良好な内部環境と外部との繋がりを確保した。しかし、一方で集会室を分割したとき、廊下から奥の集会室に寄り付かない点に不備があった。

福田 勝 作品（佳作）

中央に集会室を配し、四隅に諸室を設けた斬新な構成が目をつけた。四方からアクセスできる点も独創的である。一方で、具体的に使用状況を推測すると、動線計画上不明な点があり、管理上も課題を含んでいる。実現性という点においても一工夫欲しかった。

杉原 成海 作品（佳作）

緩やかな勾配を持つ大屋根がおおらかな外観とコンパクトで合理的な平面形が、現実性の高い案として評価された。諸室の環境や相互の関係も良好だが、集会室の形状や分割時の環境に未整理な部分が残る点が惜まれる。

福井 将人 作品（奨励賞）

明快な配置計画と、底を有効にデザインしたモダンな外観が評価された。玄関ホールを土間として南北両側からアクセスできるようにした点も評価できる。しかし、開口部の取り方や、内部と外部のつながりという点において検討が不十分だと思われる部分がある。

久保 和誠 作品（準グランプリ）

視線の抜けのいい玄関ホールを中央に配置して、集会室とその他部分を分節した。シンボルツリーのあるテラスが両者と内外を結んで使いやすい動線を獲得した。西側テラスに面した可動ルーバーはデザイン性が評価される一方で、コスト負担の大きさが指摘され準グランプリに留まった。

川田 ひかる 作品（優秀作品賞）

大屋根の下に東西をつなぐ透明感のある集会所を配置したダイナミックな案である。デザインや空間の個性が高く評価されたが、その一方でランニングコストが過大となる懸念され、実施を前提とした当コンペでは優秀作品に留まった。

國吉 海斗 作品（佳作）

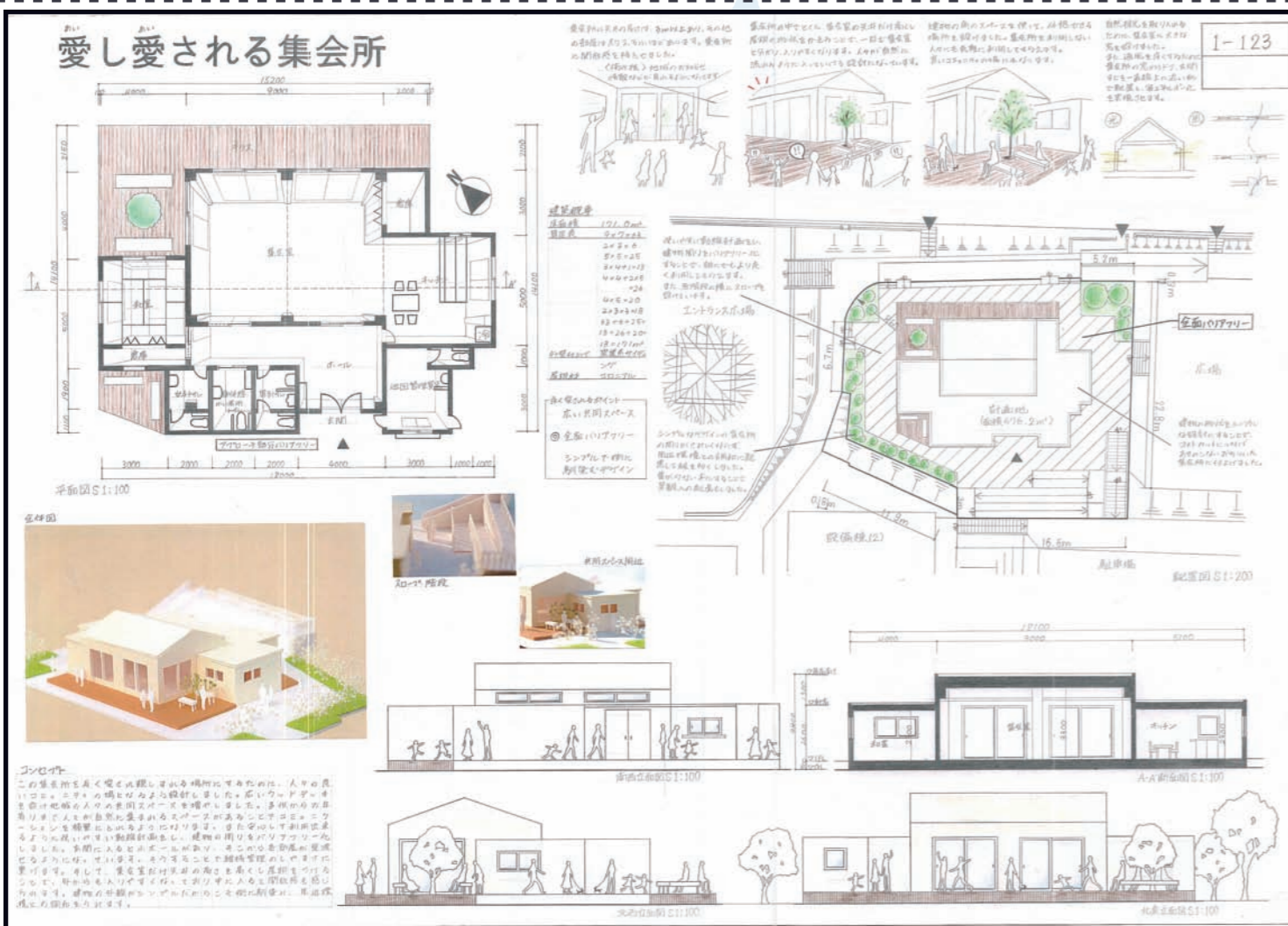
パーゴラのあるデッキを中央に配置し、両側に集会室と諸室を配することで解放感と内外の連続性を実現した。広場とデッキが連続し、外部空間につながりが生れることも大きな魅力である。しかし、分棟にすることで管理や運営における不便さが生じることは避けられない。

藤井 瑠日 作品（奨励賞）

集会所で開催される年間のイベントを想定したコミュニティ形成のきっかけとなる場が提示された。特にパースで示されたシーンは楽しげである。しかし、集会室1にほとんど開口部がなく、閉じられている点や、諸室を結ぶ廊下も魅力的とはいえない難い点が惜まれる。

望月 祐星 作品（奨励賞）

大きなガラス面を持つ集会室をひととき高くすることで、シンボリックな外観を形成している。コンパクトな平面の周囲をウッドデッキで囲むことにより、内外の交流が期待できる。しかし、その反面、売りである集会室の大ガラス面が大きな環境負荷をもたらすことが懸念される。

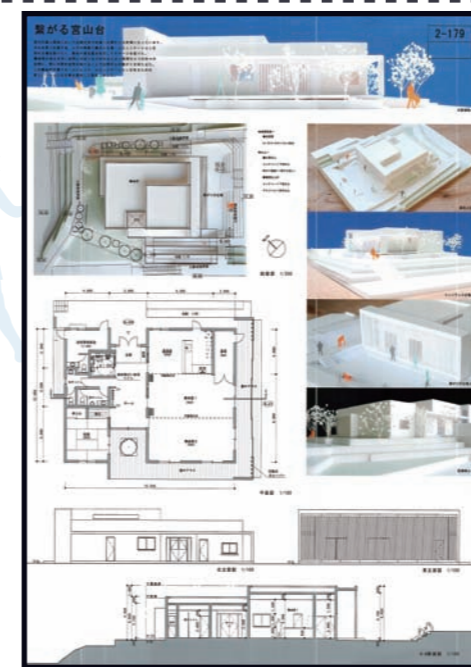


グランプリ 夏目 亜利紗
 大阪市立工芸高等学校 3年
 愛し愛される集会所

この集会所を長く愛され親しまれる場所にするために、人々の良いコミュニティの場となるよう設計しました。広いウッドデッキを設け、地域の人々の共同スペースを増やしました。子供からお年寄りまで人々が自然に集まれるスペースがあることで、コミュニケーションを頻繁に取れるようになります。

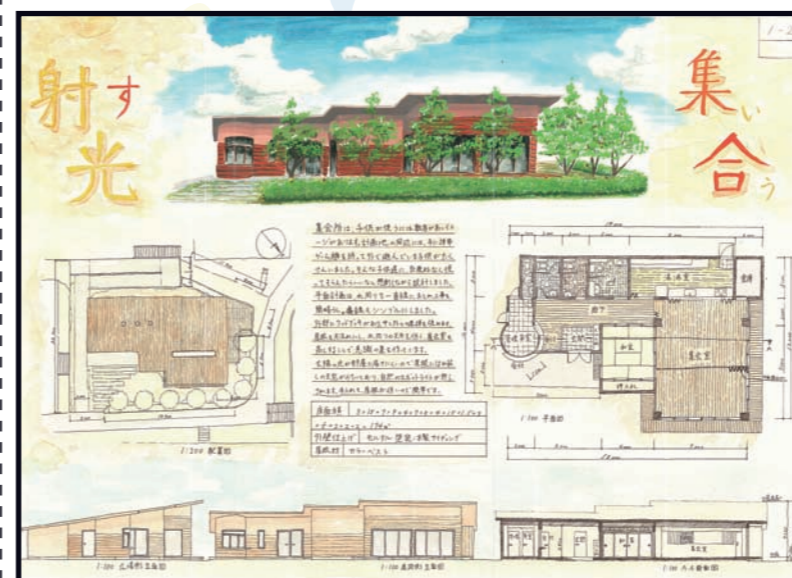
また、安心して利用できるように使いやすい動線計画をし、建物の周りをバリアフリー化しました。玄関に入ると小ホールがあり、そこから各部屋が見渡せるようになっています。そうすることで維持管理のしやすさに繋がります。

そして、集会室だけ天井の高さを高く屋根をつけることで、外からも入りやすくなっており中に入ると解放感も感じられます。建物の外観がシンプルだからこそ街に馴染み、周辺環境との調和をうみます。



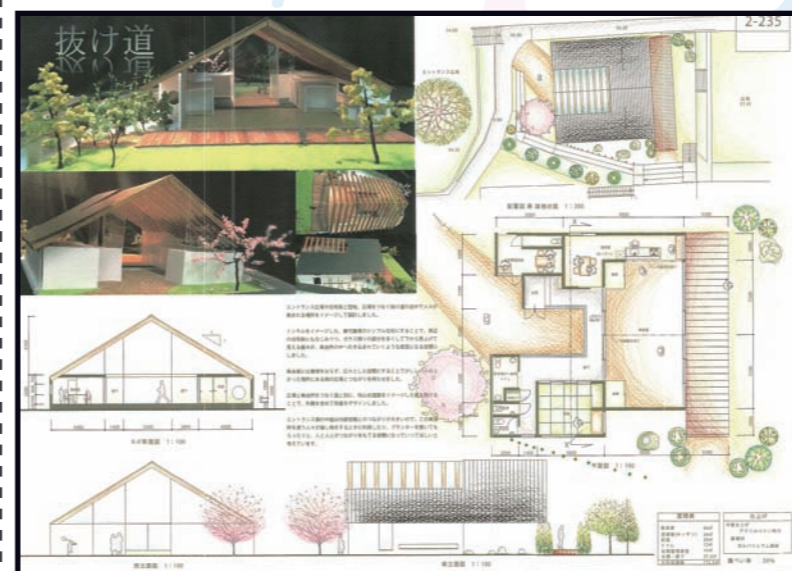
準グランプリ 久保 和誠
 大阪建設専門学校 1年
 繋がる宮山台

現代の隣人関係において近隣住宅や地域への関わりは希薄になっています。それを見つめ直す為、人々が気軽に集まれる場・コミュニケーションを取れる場を設けたく、敷地の高低差を利用してステージを設けた。集会室のある大きい空間と水回りなどがある小さい空間同士の繋がりを持たせた。この集会所を建てることによって、コミュニケーションを取るための新しいツールになる事を期待して設計しました。



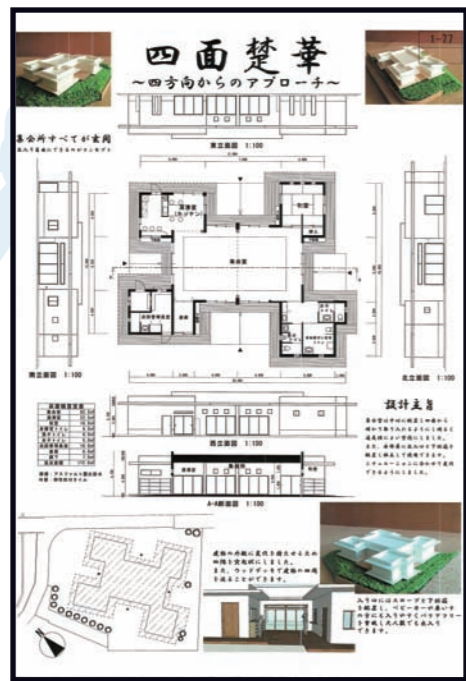
優秀作品賞 宮地 平
 大阪市立工芸高等学校 3年
 射す光・集い合う

集会所は、子供が使うには敷居が高いイメージがあります。計画地の周辺には、手に携帯ゲーム機を持って外で遊んでいる子供がたくさんいました。そんな子供達に、気兼ねなく使ってもらえたらいいなと想像しながら設計しました。外部にウッドデッキがあり、中と外との連携を強めます。屋根を片流れにし、水周りの天井を低く、集会室を高くすることで、意識の差を作っています。太陽の光が部屋に届きにくいので屋根にはめ殺しの天窓が付いており、自然のスポットライトが照らされます。(一部抜粋)



優秀作品賞 川田 ひかる
 大阪工業技術専門学校 1年
 抜け道

エントランス広場や住宅街と団地、広場をつなぐ抜け道の途中で人々が集まれる場所をイメージして設計しました。トンネルをイメージした、妻切屋根のシンプルな形にすることで、周辺の住宅街にもなじみつつ、ガラス張りの部分を多くして下から見上げて見える垂木が、集会所の中へ引き込まれていくような感覚になる空間にしました。広場と集会所をつなぐ庭と別に、枯山水庭園をイメージした庭を設けることで、外観を含めて和室をデザインしました。エントランス側の中庭は内部空間とのつながりが大きいので、この集会所を使う人々が催し物をするときに利用したり、プランターを置いてもらったりと、人と人がつながりを持つ空間になってほしいと考えています。(一部抜粋)



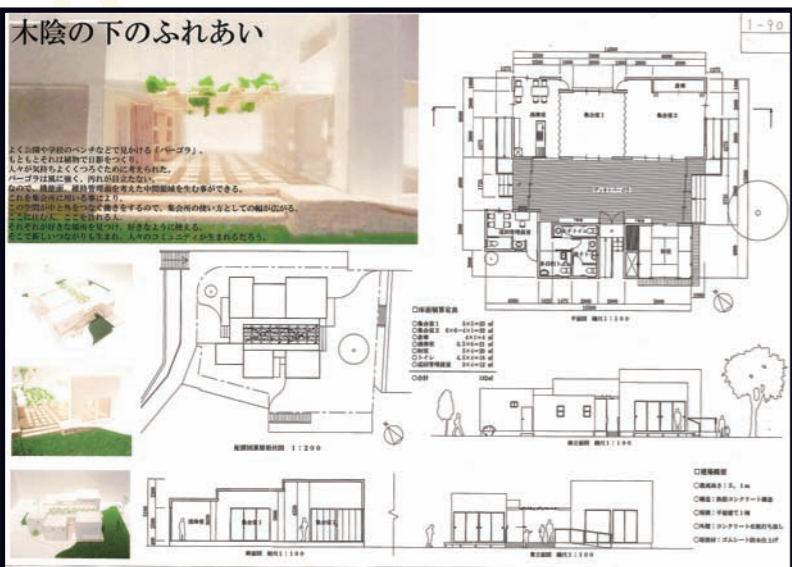
佳作 福田 勝
大阪府立西野田工科高等学校 3年
四面楚華
~四方向からのアプローチ~

集会室は中心に配置し四面から明かり取り入れるようにし明るく通気性により空間にしました。また、各部屋に出入口と下駄箱を配置し独立して使用できます。シチュエーションに合わせて変化できるようにしました。建物の外観に変化を持たせるため四隅を突起状にしました。また、ウッドデッキで建物の四周を巡ることができます。入り口にはスロープと下駄箱を配置し、ベビーカーや車椅子の方にも入りやすくバリアフリーを重視し大人数でも出入りできます。



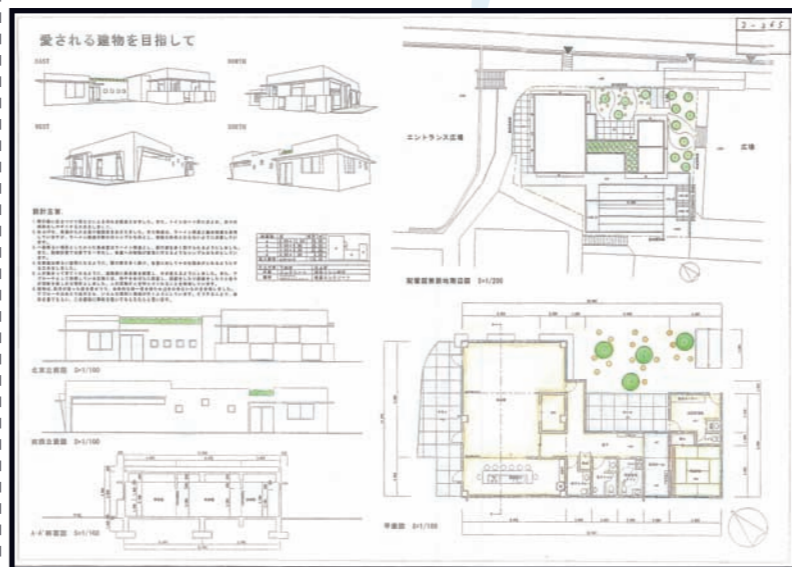
奨励賞 藤井 瑠日
大阪市立工芸高等学校 2年
きっかけの場所

今回この集会場は、多様なコミュニティ活動の場の”きっかけ”を作る為に、近隣住宅地の人々が、気軽に訪れられるように工夫しました。その為に年間を通し、たくさんのイベントが行われ、それを生かす為のステージやウッドスペースを設けました。シンプルなデザインのため、コスト面や落ちつきを保て、廊下も広くバリアフリーなため、車椅子の人もゆったりと過ごせます。屋上には芝生をひいた為、断熱効果が期待できます。



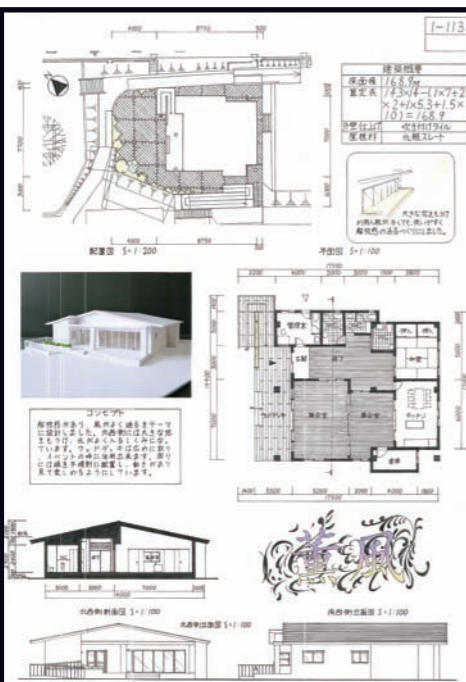
佳作 國吉 海斗
大阪市立都島工業高等学校 3年
木陰の下のふれあい

よく公園や学校のベンチで見かける「パーゴラ」。もともとそれは植物で日影を作り、人々が気持ちよくつろぐために考えられた。パーゴラは風に強く、汚れが目立たない。なので、機能面、維持管理面を考えた中間領域を生む事ができる。これを集会所に用いることにより、この空間が中と外をつなぐ働きをするので、集会所の使い方としての幅が広がる。ここに住む人、ここを訪れる人、それぞれが好きな場所を見つけ、好きなように使える。そこで新しいつながりも生まれ、人々のコミュニティが生まれるだろう。



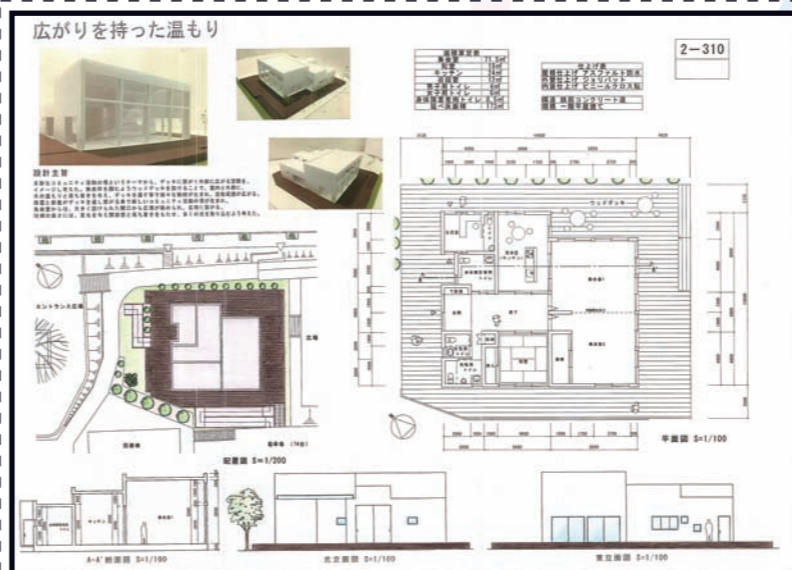
奨励賞 福井 将人
大阪工業技術専門学校 1年
愛される建物を目指して

1. 開口部に庇をつけて雨などによる汚れを軽減させました。また、トイレは一ヶ所にまとめ、日々の掃除をしやすくする工夫をしました。
2. 仕上げは、高価のものを避け建設費をおさえました。また構造は、ラーメン構造と壁式構造を併用していますが、ラーメン構造の部分はシンプルな形とし、複雑な形状とならないように注意しています。
3. 一番明るい場所としたかった集会室はラーメン構造とし、開口部を多く設けられるようにしました。また、動線計画では廊下を一本化し、各室への移動が容易に行えるようなシンプルなものとしています。
4. 主要室は明るい空間になるように、開口部を多く設け、各室に対して十分な彩光が取れるようにする工夫をしました。
5. 人が集まって来てくれるように、道路側に集会室を配置し、中が見えるようにしました。また、アプローチとして、利用している広場には、椅子をまばらに配置し、談話をしたり、読書をしたりと各々が活動を楽しめる場所としました。人の活動が人を呼んでくれることを期待しています。
6. 建物は、四方が違った姿を見せつつ、全体的な統一感を持たせ飽きの来ないものを目指しました。アプローチはあえて蛇行させ、いろんな場所に視線が行くようにしています。そうすることで、全体を見てもらい、この建物に興味を抱いてもらえたらと思います。



佳作 杉原 成海
大阪市立工芸高等学校 3年
薫風

解放感があり、風がよく通るをテーマに設計しました。北西側には大きな窓をもうけ、光がよく入るしくみになっていますウッドデッキは広めに取り、イベントの時に活用できます。周りには緑を不規則に配置し、動きがあり見て楽しめるようにしています。大きな窓をもうけ、利用人数が多くても、使いやすく解放感のあるつくりをしました。



奨励賞 望月 祐星
大阪工業技術専門学校 1年
広がりを持った温もり

多彩なコミュニティ活動の場というテーマから、デッキに繋がり外部に広がる空間を、イメージし考えた。集会所を囲むようウッドデッキを設けることで、室内と外部に、木の温もりと落ち着きを与え、デッキを通すことで様々な動線が生まれ、活動範囲が広がる。部屋と部屋がデッキを通し繋がる事で新しいコミュニティ活動の場が生まれ、集会所からは、大きく設けられた開口から広場が眺められ、広場に繋がる。屋根の高さには、変化を与え解放感と落ち着きをもたせ、多くの光を取り込むよう考えた。